

Sun Java™ System Directory Server 5.2

15億ライセンスを超えるLDAPディレクトリ・サーバ



Key feature highlights

大規模なマルチCPUシステムをフルに活用できる最大12CPUのリニアなスケーラビリティ

プロトコル非依存の設計、オープン標準の Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) v3と Directory Services Markup Language (DSML) v2をサポート

LAN、WANに対応した4ウェイのマルチマスター・レプリケーション機能で24時間365日ディレクトリ・サービスを提供

Solaris™とHP-UXで64bitキャッシュをサポートする高性能設計でシステムのメモリ容量を最大限に活用

属性情報の暗号化、きめ細かなパスワード管理、フラクショナル・レプリケーションを通じてセキュリティとプライバシー保護を強化

Windows NT/Windows 2000 Active Directory 環境とSun Java System Directory Server環境間のパスワード管理をシンプルにするSun Java System Identity Synchronization for Windows ソフトウェアとの連携

今日のアイデンティティ管理の基盤には、高い柔軟性、スケーラビリティ、可用性、パフォーマンスを発揮するディレクトリ・サービスが不可欠です。ディレクトリにはユーザのプロファイルやアクセス権限などの情報が保存されるほか、アプリケーションやネットワーク・リソース情報なども一元的に保存 / 管理されます。基底レベルのディレクトリには公開鍵認証 / パスワード / PIN番号 (個人識別番号) などのユーザ・プロファイル情報が保存され、本人確認と認証に用いられます。

世界で通算15億ライセンスを超える販売実績を持つSun Java System Directory Serverは、最も広く普及した汎用LDAPディレクトリ・サーバで、以下の多彩な機能を備えています。

- ・ アイデンティティ・プロファイルの一元化によりユーザ管理が容易
- ・ アクセス制御用の認証情報を集中管理し、セキュリティを強化
- ・ アイデンティティ情報の精度向上でユーザ管理コストが低減
- ・ 全社的に導入すればスケール・メリットで運用効率が向上

先進的アーキテクチャ

プラグイン・アーキテクチャ

Sun Java System Directory Server 5.2の設計にはプラグイン・アーキテクチャが採用されています。これは、レプリケーションから参照のインテグリティに至るあらゆる中核機能をプラグイン形式で提供するもので、公開仕様のプラグインAPIも充実しているため、開発者は個別のニーズに応じて内部ディレクトリ操作を柔軟にカスタマイズできます。Sun Java System Directory Server 5.2はこのオープンな拡張性の高いアーキテクチャで他社製品と一線を画し、その他数々の利点も相まって市場をリードしています。

高度なレプリケーション・プロトコル

Sun Java System Directory Server 5.2はLAN / WANの両方に対応した4ウェイのマルチマスター・レプリケーション機能を備えています。この機能により、常時読み取り / 書き込みが可能な可用性の高いディレクトリ・サービスが実現し、シンプルなレプリケーションやカスケード・レプリケーションなどのシナリオに応じた柔軟かつスケーラブルな対応が可能です。特に24時間365日サービスレベルを維持しななければならない企業やサービス・プロバイダーには欠かせない機能です。また、エントリの一部属性のみを複製する部分レプリケーション機能も備えています。この機能では、データベース内の全エントリを複製する場合に、属性の一部だけをフィルタで除去することが可能です。

15億ライセンス以上の販売実績を持つSun Java System Directory Serverは、最も広く普及した汎用LDAPディレクトリ・サーバです。

部分レプリケーション機能は、たとえば銀行が顧客のクレジットカード番号以外の口座情報をすべて複製したい場合などに利用でき、プライバシー保護が図れるほか、EUデータ共有規則などの政府規制にも適合します。

64bit対応とリニアなスケーラビリティ

Sun Java System Directory Server 5.2は、64bitに対応したディレクトリ・サーバです。従来は1ディレクトリ当たり3.7GBというメモリの制約がありましたが、64bit化でこの制約を取り払ったほか、大容量のキャッシュ設定により大規模なデータセットでも高い性能を可能にしています。さらに、最大12CPUまでのリニアなスケーラビリティにより、マルチCPUシステムの利点をフルに活用できます。

プロトコル非依存の設計

Sun Java System Directory Server 5.2はプロトコル非依存のフロントエンドによりLightweight Directory Access Protocol(LDAP)とDirectory Services Markup Language(DSML)をネイティブでサポートします。この設計は他のLDAPディレクトリ製品で採用されているゲートウェイ設計に比べてきわめて効率がよく、高性能を発揮します。

DSML v2は、SOAPとHTTPを利用してディレクトリ情報にアクセスするWebサービスのオープン標準です。開発者はデータのプレゼンテーションや操作に威力を発揮するXMLの利点と、Sun Java System Directory Serverの優れたスケーラビリティ/セキュリティ/可用性/情報管理機能を組み合わせることができます。

マルチデータベース設計

Sun Java System Directory Server 5.2はマルチデータベース設計を採用し、数百万件を超える膨大なエントリにも対応できる垂直・水平両方向のスケーラビリティを実現しています。また、ディレクトリ・データをパーティション化して複製を容易にすることもできます。

マルチプラットフォーム対応

Sun Java System Directory Server 5.2は以下の各種プラットフォームに対応しています。

- Red Hat Linux 7.2
- Solaris™ 9, 8(SPARC®プラットフォーム版)
- Solaris 9(x86プラットフォーム版)
- Sunの提供するLinux
- HP-UX 11i
- Microsoft Windows 2000
- Windows 2000 Advanced Server

セキュリティを強化

パスワード・ポリシー

Sun Java System Directory Server 5.2では複数のパスワード・ポリシーを通じたきめ細かなパスワード管理が可能です。ポリシーはディレクトリに保存された各グループ別にカスタマイズできます。たとえば社員には30日ごとにパスワードを変更させる一方で、インターネット経由でポータルにアクセスしてくる企業パートナーには恒久的に同じパスワードを利用可能にする、といったポリシーの使い分けもできます。さらに、新登場のSun Java System Identity Synchronization for Windows 1.0を併用すれば、Windows 2000 Active DirectoryとSun Java System Directory Serverのパスワードを統合することも可能です。

実行権限の取得機能

新しく加わったセキュリティ機能に実行権限の取得機能があります。この制御機能は、特定のアプリケーションまたはユーザを1ユーザとしてディレクトリにバインドし、ユーザの権限を検査するものです。この機能を利用すれば、アクセス制御の設定が適

正かどうか確認できるだけでなく、現ユーザの権限に応じて自動的にユーザ・インタフェースをカスタマイズすることも可能となり、画一的なインタフェースから脱却できます。

属性情報の暗号化

Sun Java System Directory Server 5.2には属性情報を暗号化する機能も加わりました。これはデータ・エントリのうち一部の属性情報を暗号化してディレクトリに保存するもので、機密データの保護に役立ちます。データはデータベース・ファイルやバックアップ・ファイル、エクスポートされるLDIFファイルなどに保存されますが、暗号化されているので読み取ることができません。属性値はディレクトリ保存前に暗号化され、解読は呼出に応じて送直前の直前に行われます。

ダイナミックACIとマクロACI

Sun Java System Directory Server 5.2は各種のアクセス制御情報(ACI)をサポートし、データやユーザのほぼあらゆるサブセットへのアクセスを許可/拒否することができます。ツリー構造がいくつも反復される組織では、マクロACIを利用してACIの数を最適に保つことでパフォーマンスを改善できます。

ロールとサービスクラス

Sun Java System Directory Server 5.2は、大規模なディレクトリ展開での認証管理負担を軽減するよう設計されています。ロール(役割)はファーストクラスのオブジェクトとしてインプリメントされるほか、前バージョンでサポートされていた静的/動的グループの概念も統合しました。ロール・メンバーは、使用するロールのタイプ(managed, filtered, nested)に応じて明示的または動的に指定することができます。アプリケーションはロール・メンバーまたはユーザのロールに対してクエリを出す仕組みなので、誰がロール・メンバーかを知る必要はなく、認証がシンプルになります。特定のユーザまたはエントリが担っているロールが把握できるほか、特定のロールを持つユーザ/エントリも把握できるので、セキュリティ確保に欠かせない認証監査も簡単そのものです。属性のダイナミックな割り当てを可能にし、情報管理やデータ保存/更新の負担を軽減するもう1つ

の特長に、サービスクラスがあります。ロールに基づくこの属性を利用すれば、購読レベルに応じてメール発信割り当てを設定できるほか、特定社員に認証ロールを割り当てる場合などは、エントリ1項目を変更するだけで済みます。

SSL/TLS

Sun Java System Directory Serverは、ネットワーク上で安全かつ信頼性の高い通信を可能にするための機能をいくつか備えています。標準LDAPプロトコルのLDAPSIはSSLでデータの暗号化を行い、オプションで証明書も利用します。

Start Transport Layer Security(StartTLS)は、もともと暗号化されていないLDAP接続をTLSで暗号化する拡張機能です。Sun Java System Directory Server 5.2はMicrosoft WindowsとUNIX®の両プラットフォームでStartTLSをサポートします。SSL接続はクライアントがディレクトリと通信する際に利用しますが、サーバ間のチェーニング操作および修正のレプリケーションにも利用可能です。

柔軟な管理

ウィザード

Sun Java System Directory Server 5.2の管理コンソールには多くの新機能が追加されました。その中に、データベースの追加作成ウィザードとレプリケーション作成ウィザードがあります。ウィザードを使えば初心者/経験者を問わず簡単にタスクを進めることができます。

オンライン/オフライン管理

ディレクトリがオフライン時に実施できる管理タスクの大半(バックアップ、バルク・インポート、インデックス再構築)は、オンライン時にも実施可能です。これは高可用性ディレクトリ・サービスに不可欠の機能です。

Sun Java System Directory Server 5.2

コンソールまたはコマンド行

ディレクトリ・サービスの管理を容易にするため、コンソールはコマンド行からも操作できる設計となっています。したがってスクリプトが利用でき、無人運用も可能となるほか、GUIが使えない環境からもコンソール操作が可能です。

スキーマ拡張が可能

Sun Java System Directory Server 5.2には、数百のオブジェクト・クラスや属性を含む標準スキーマが付属しています。この標準オブジェクト・クラスや属性でほとんどのニーズに対応できますが、場合によっては新しいオブジェクト・クラスや属性を作成してスキーマを拡張する必要も生じます。こうした場合、コンソールからスキーマを修正することもできますが、コマンド行から基本的なLDAP修正コマンドで修正したり、LDAP対応アプリケーションのプログラミングで修正することも可能です。

Sunのソフトウェアについて

Sunのソフトウェアはデスクトップからデータセンターに至るエンド・ツー・エンドのソリューションを構成し、システムの複雑さを緩和してWebサービスへの常時アクセスを維持するとともに、コンピューティング・コストを引き下げます。Java™、Solaris™オペレーティングシステム、Sun ONE™ソフトウェア、N1™など、Sunの定評ある各種ソフトウェアは開発 / 運用 / 管理のあらゆる面で業界の革新を進め、お客様に新たな価値を創造しています。

Sunについて

Sunはお客様から長年の信頼を得て、ビジネス拡大 / コスト低減 / 競争力の強化を支援してきました。Sunは業務用のハードウェア / ソフトウェア / サービス / テクノロジーのトップ・プロバイダーとしてネットワークを支えています。

オペレーティングシステムとプラットフォーム

- Solaris 9 (SPARC®版 X 32bit/64bit対応 SPARC)
- Solaris 8 (SPARC版 Y 32bit/64bit対応 UltraSPARC)
- Solaris 9 (x86プラットフォーム版)
(Pentium II以降のIA-32プロセッサ)
- SunのLinuxディストリビューション
(Pentium II以降のIA-32プロセッサ)
- Hewlett-Packard HP-UX 11i
(32bit/64bit PA-RISC 1.1または2.0プロセッサ)
- Microsoft Windows 2000 ServerとAdvanced Server SP3 (Pentium III以降のIA-32プロセッサ)
- Red Hat Linux 7.2
(Pentium II以降のIA-32プロセッサ)

業界標準のサポート

- LDAPバージョン2およびLDAPバージョン3のオペレーション
- DSML v2
- LDAPバージョン2、バージョン3のRFCインプリメンテーション (RFC 1274, 1558, 1777, 1778, 1959, 2195, 2222, 2247, 2251, 2252, 2253, 2254, 2255, 2256, 2279, 2307, 2377, 2829, 2830, 3377を含む)
- LDAP検索フィルタ (presence, equality, inequality, substring, approximate ("sounds like"), プール演算子and (&), or(|), not(!) など)
- LDAPバージョン3のインテリジェントreferralにより、クエリの際に他のディレクトリも参照可能

詳細

Sun Java™ System Directory Server 5.2の詳細については、sun.co.jp/software/をご覧ください。

サン・マイクロシステムズ株式会社

本社	〒158-8633	東京都世田谷区用賀4-10-1	SBSタワー	電話(03)6717 5000(代)
山王オフィス	〒100-6160	東京都千代田区永田町2-11-1	山王パークタワー12F	電話(03)4232 2400(代)
中部支社	〒460-0002	名古屋市中区丸の内2-14-4	エグゼルの内507	電話(052)203 1233(代)
大阪支社	〒541-0052	大阪市中央区安土町1-8-15	野村不動産大阪ビル5F	電話(06)6265 5700(代)
九州支社	〒814-0001	福岡市早良区百道浜2-1-22	福岡SRPセンタービル3F 308	電話(092)834 0100(代)
つくば営業所	〒305-0032	茨城県つくば市竹園1-6-1	つくば三井ビルディング11F	電話(0298)61 2210(代)
豊田営業所	〒471-0833	愛知県豊田市山之手5-73-1	山之手ビル7F	電話(0565)25 5700(代)
ホームページ	http://sun.co.jp/			

© 2003 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. Sun, Sun Microsystems, サンのロゴマーク, Java Coffee Cupのロゴマーク, N1, Solaris, Javaは、米国Sun Microsystems, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。すべてのSPARC商標は、米国SPARC International, Inc.のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC商標がついた製品は、米国Sun Microsystems, Inc.が開発したアーキテクチャに基づくものです。UNIXは、X/Open Company Ltd.が独占的にライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。資料の内容は、お断りなしに変更することもありますのでご了承ください。

